

令和6年度4月～9月にかけて行った事業について、報告します。また「子ども図書研究室講演会」は次のページで詳細を報告します。

新刊貸出事業

令和7年度運用開始予定の新事業「新刊巡回貸出事業」。当事業では当研究室が全点収集で購入した児童書を市町の図書館で御覧いただけるよう、県内4拠点を巡回します。300～400冊程の本を1か月間、事業協力館に設置し閲覧できるようにします(1年間に12回程度設置予定。新刊本が県内をぐるぐる回るイメージです)。その試験事業として「新刊貸出事業」を袋井市立袋井図書館様の御協力のもと、実施しました。

(期間：7月2日～7月31日)近隣市町の公共図書館職員、学校図書館職員、教職員、読み聞かせサポーターなど多くの方々に御利用いただきました。

新刊児童図書紹介

みなさまにご好評いただいている「新刊サロン」は「新刊図書紹介」と改めリニューアル。8月と2月、年に2回実施します。8月は令和6年度4月以降に選定した児童書をご紹介しました。選定した本の特徴や特に優れていると考えた点などを選定を行う職員から紹介。「新刊図書紹介」も「新刊サロン」と同様にYoutubeでの配信を行います(現在公開中～12月31日まで)。2月は8月以降に選定した文を紹介予定です。

「新刊図書紹介」の申し込みは1月から開始します。図書館や学校で選書に悩んだ際の参考にいただければ幸いです。

新刊巡回展示

今年度の新刊巡回展示は、沼津市立図書館(9月19日)で実施いたしました。今年度受け入れをした本、約1000冊を展示し参加者のみなさまにご覧いただきました。当館職員が近年の出版傾向や選定した知識の本、読み物、絵本の中でも特に紹介したい作品を取り上げ、魅力についてお伝えしました。

児童書や絵本について、参加者の皆様から質問やおはなしを伺い、本の魅力を直接お伝えしたり、学校や他館のことを教えて頂いたりする機会となりました。

子ども図書研究室講師派遣

「子ども図書研究室講師派遣事業」は、当館職員が市町の図書館へうかがい、読み聞かせや児童書についての講座を開催しています。最もご要望の多い「読み聞かせ入門」では、よい絵本の特徴や読み聞かせに向いている本について説明し、読み聞かせの際の絵本の選び方や読み方、また読み聞かせ中の「こんな時どうする?」といった疑問にもお答えしています。

子ども図書研究室って?

子ども図書研究室は子どもの読書活動に携わる大人の方を対象とした研究施設です。15歳(中学生を除く)の方がご利用いただけます。

当研究室では出版されている児童書・絵本を可能な限り全点収集する方針で購入しています。児童書の調査・研究、旧版と新版の読み比べ、調べ学習で使う資料を探すなどなど、多様な目的で活用していただけます。児童書に関してのレファレンス(調査・研究のお手伝い)も行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

子ども図書研究室講演会

令和6年度子ども図書研究室講演会では、翻訳家の三辺律子氏をお招きし、『日本の読者に届けたい翻訳文学』と題し、ご講演いただきました。以下のとおり報告します。

【児童文学・YA文学が生まれるまで】

YA（ヤングアダルト）とはティーンエージャー、中高生を指す。YA文学はティーンエージャーを读者として想定し、思春期や友情、家族、恋愛などについて扱っている作品が多い。日本では1990年代に『黄色い目の魚』（佐藤多佳子／作）や『バッテリー』（あさのあつこ／作）、『カラフル』（森絵都／作）が出版されている。

元々子どもは小さい大人という存在でしかなかったが、中世以降、“子ども”という概念が誕生して児童文学も誕生したと言われている。これには宗教的背景があり、産業革命以降の中産階級の人々は厳格なピューリタンだったため、「子どもたちがキリスト教の原罪を背負ったまま、死んでしまっても困る」「子どものうちから教育をして、もし死んでしまっても天国に行けるように」と子どもの教育が始まった。『天路歷程』（ジョン・バニヤン／著）のような子どもを教育しようとする大人の思惑が詰め込まれた本が次々と出版されるなかで、当の子どもたちは大人向けの小説である『ロビンソン・クルーソー』（ダニエル・デフォー／著）、『ガリバー旅行記』（ジョナサン・スウィフト／著）などの面白い本を好んで読んでいた。

イギリスで教育の必要性から小学校令が発出され、学校教育が行き届いたことや印刷技術の向上に伴って、商品としての児童書の価値が見出されたことにより、児童文学が生まれていく。

YA文学はアメリカで誕生した。第二次世界大戦後、アメリカの大学進学率が上がり始めた頃に出版された『ライ麦畑で捕まえて』（J・D サ

リンジャー／著）は、大学進学できずにドロップアウトしてしまう17歳の少年の話である。今までは大人か子どもの本しかなかったが、やっと自分たちのための本が出版されたと、アメリカでも日本でも熱狂的に受け入れられた。同時代、音楽や映画シーンではまさに理由なく反抗する若者の姿を描いた『理由なき反抗』（ニコラス・レイ／監督）のような作品が多く世に出たが、若者のための文学は1960年代後半になるまで待たないといけなかった。

1957年には、アメリカ図書館協会が「問題を抱えている若者がより充実した人生を送れるようにするために本を書いたり届けたりすること」を使命に掲げ、「YALSA（ヤングアダルト図書館サービス協会）」を創った。

【1990年代以降のトレンドジャンル】

1997年に出版された「ハリー・ポッターシリーズ」をきっかけにティーンエージャーが本を読むようになり、1999-2005年の間にアメリカで出版されたものの4分の1がYA文学になったとTIME（タイム）に掲載された。

当時、ファンタジー作品は売れなかったため、『ハリーポッター』（J.K. ローリング／作）の初版は、ハリーと機関車が描かれたファンタジー要素の無い表紙であった。しかし同シリーズをきっかけにファンタジーブームが起き、雑誌で特集されるまでになった。これを機にダークファンタジーや人間の女の子、ヴァンパイアの男の子、オオカミ少年の三角関係のラブストーリー『トワイライト』（メイヤー・ステファニー／著）のようなパラノーマルファンタジー作品のアメリカでの出版数が急激に増加する。

その後、登場するのが究極の管理社会や核戦争後の荒廃した世界を舞台にしたディストピア小説。この頃にはYA文学も映像化される分野に成長しており、YA文学を原作にした映像化作品には現在のスター俳優も多く出演している。

後に続いたのは難病物のコンテンポラリー・

リアリズム作品。お涙頂戴を狙った“いい話”ばかりではなく難病を抱え、死を目前にする主人公たちが抱く感情や彼らを取り巻く人々をリアルに描いている。

【社会が抱える問題と YA 文学】

YA 文学は文学の中でもとりわけ、社会が抱えている問題や子どもたちが直面している問題をダイレクトに映している。セクシャリティもその一つである。一人は同性愛者、もう一人は異性愛者、同姓同名の 2 人の少年が出会う『ウィル・グレイソン、ウィル・グレイソン』（ジョン・グリーン／作 デイヴィッド・レヴィサン／作）やゲイの“普通”の高校生を描いた『サイモン VS 人類平等化計画』（ベッキー・アルバータリ／作）はセクシャリティを扱った作品の中でも転換点になった。これまで LGBTQ の登場人物は酷くいじめられるか、自分たちとは違う特別な存在として描かれてきていたが、上記の 2 作品の彼らは、特別であることを拒否している。このころからセクシャリティに対するこれまでの価値観が、映像作品にも反映されるなど少しずつ変移していく。

ブラック・ライブズ・マターを扱った YA 文学も多く出版されている。『オン・ザ・カム・アップ』（アンジー・トーマス／作）では学校の手荷物検査で、白人生徒と黒人生徒で警察官の対応が全く異なり、黒人の主人公が反発するものすごい勢いで地面にねじ伏せられる場面が描かれる。また黒人は小さい頃から「もし警察官に止められたら絶対急に動いてはいけない、手はいつも見えるところにおいておけ」と言われて育つ。しかし、白人は黒人の子どもたちがこう言われて育つことすら知らない。この“知らない”“気づかない”とは、どういうことかを『オール・アメリカン・ボーイズ』（ジェイソン・レノルズ／著 ブレンドン・カイリー／著）は書いている。

【若者の視点からみる世界】

若者文化を反映する YA 文学では、流行りのラップが題材になったり、また文章ではなく詩の形式の作品も出版が増えている。登場人物たちを取りまく複雑な背景なども詩を用いて感覚的に入っていけるように書かれている。

さらにフェミニズムを扱った作品もたくさん書かれており、「女性は勉強する必要はない」「かわいくてオシャレをしているから頭が悪いはずだ」「女性はこうあるべきだ」などの偏見が残る社会で苦しんだり、闘ったりする女の子たちの作品も三辺氏は翻訳している。

社会の動きを反映している YA 文学。トランプ政権の後、移民をテーマにした本は出版が増えていたが、日本では移民問題が身近でないと考えられていたため、翻訳の出版はあまりなかった。しかし、最近になり日本でも移民・難民がクローズアップされるのに伴い、翻訳の出版が増えてきているという。

【日本の漫画とグラフィックノベル】

『アメリカン・ボーン・チャイニーズ』（ジーン・ルエン・ヤン／作）は漫画の形式で書かれたグラフィックノベルである。日本には漫画文化があるから、わざわざ外国のものを読まなくても…と思うかもしれないが、オールカラーで印刷されている本もあり、セクシャリティ、フェミニズムなど社会の動きや問題を題材としていち早く扱うなど日本と異なる点も多い。

また外国の漫画からその国の状況や社会をみることができるとは周知のことであるが、北欧では漫画の中で、“フィクションと実際は違う”と指摘するシーンがあったり、難民問題がある地域では、難民に取材して書かれている作品もあつたりする。日本の漫画だけに留まらず、各国の歴史や文化、価値観、社会状況を映している世界の漫画は読む価値がある。

近年ではその国の人が書いた作品が増えてき

ており、例えばチベットを舞台にした作品では、歴史を基に西洋や中国の進出をうけたチベットの若者を主人公として描いている。

【三辺氏の想い】

三辺氏は講演の最後に「海外文学が好きで、（読者である）みんなにも楽しさ、面白さを伝えたい！と思って、翻訳家をしていると言っても過言ではない。今日は今までに読んだり、翻訳したりした本をたくさん紹介することができてよかった」と笑顔で締めくくった。

講演後には、参加者からの質問を受け付けた。

【参加者からの質問】

Q1 SNSなどで海外の情報を沢山知ることができる時代に、あえて本で海外文学を読む意義を三辺氏はどのように考えるか？

A1 ニュースや映像などから情報の全体像や統計的なことを知ることも重要であるが、その状況にいる人は、1人1人がその人のストーリーを持っている。海外文学を読む時、私達と全然違うところ、共通するところがいつも見つかる。だから“外国のこと”として外から眺めるのではなく、各国の社会や文化を映した物語を通じて、その世界の中に入り“自分事”として経験することが、海外文学を読む意義であると思う。

Q2 翻訳する作品は自分で選んでいたり、持ち込んだりするの？それとも出版社の方から紹介されるの？

また、文学賞受賞作品の翻訳の著作権や競争など、出版業界の少し内側のお話を伺いたい。

A2 翻訳する本は持ち込みと紹介、半々であるが持ち込みの方がやや多い。出版社の紹介の場合も、依頼元の編集者は知り合いであったり、私の仕事を見ている人だったりするため、好きなジャンルで依頼されることやその中から選ば

せてもらうことが多い。

個人的には、少し前に出版されていたが、最近になってやっと翻訳にGOがでた作品や、グラフィックノベルも2015年頃はYAでは出版が少なかったために、なかなか出版してもらえなかった作品もある。

20～10年前はニューベリー賞などの賞をとると著作権が競争になっていたが、最近は以前ほど翻訳文学作品は売れないため、空いていたりする。

【報告後記】

数多くの翻訳を手掛けている三辺律子氏から、これまでに訳された作品の裏話も含め、海外文学を紹介していただける貴重な時間であった。

各時代の社会問題や子どもたちが抱える問題を色濃く映していることはYA文学の特徴であり、近年では詩や漫画の形式を持つ新しい作品が増えていることを学んだ。

子どもたちだけでなく、児童・YAサービス、学校図書館に携わる私たちも、海外文学を通じて、世界に目を向けていくことが重要であると感じる講演であった。

（図書班 上村）

※本講演で三辺氏が紹介した図書の一覧は当館HPにて公開している。

静岡県立中央図書館所蔵 地域学習に役立つ図書リスト・分冊図書リストの改訂

静岡県立中央図書館では、静岡県や県内自治体に関すること、静岡県出身者によって書かれた本、また県内各自治体が刊行した行政資料等を、地域資料として広く収集し、保存・提供しています。このような地域資料のうち、小学生や中学生が利用しやすい平易な文章で書かれた資料、各市町の統計データなどの基礎的な資料を、「地域学習に役立つ図書」として登録しています。

このような「地域学習に役立つ図書」をまとめたブックリストを、『静岡県立中央図書館所蔵 地域学習に役立つ図書リスト』として、令和6年8月1日に、5年ぶりに改訂しました。今回発行したリストでは、令和6年5月末日までに当館で受入した地域学習に役立つ図書を掲載しています。

小中学校の地域学習等で主に取り上げられることが多いと思われる **5つのテーマ別** の分冊版もあり、こちらも改訂をしました。

①『わたしの地域の「昔のこと」について調べたい』

テーマ：地域の歴史や史跡・文化財など

②『わたしの地域の「自然」について調べたい』

テーマ：地域の環境や生物、富士山など

③『わたしの地域の「人」について調べたい』

テーマ：静岡県出身者の著作や偉人の伝記など

④『わたしの地域の「もの」について調べたい』

テーマ：地域の産業や仕事、特産など

⑤『わたしの地域の「くらし・まちづくり」について調べたい』

テーマ：地域の行政や防災など

調べたいテーマに合わせて資料を探すことができます。

『地域学習に役立つ図書リスト』及び分冊版については、県内の各市町村立図書館をはじめ、県内小中学校・特別支援学校の図書館(室)にも案内を送付しています。また、当館 HP から PDF 版と Excel 版がダウンロードできます。PDF 版は印刷する際に、Excel 版は検索や加工をして使用する際に便利です。加工や使用に当たっての連絡や許諾は不要です。御自由に御活用ください。

静岡県立中央図書館では、このほか、児童・生徒の素朴な疑問解決や教職員の調べ物についてのレファレンス対応、当館所蔵資料の市町立図書館経由での貸出・受取など、地域学習支援を行っています。ブックリストと合せて御利用ください。

地域学習に役立つ図書リストの活用イメージ



知識



『うんこ虫を追え』
館野鴻／文・絵
福音館書店
2024年5月

短い手足に宝石のように輝くカラダのオオセンチコガネ、の大好物は“うんこ”。この虫を筆者が実際に育てて観察する。卵からの成長過程はよくわかっておらず、頼みは『ファール昆虫記』。オオセンチコガネは地中深くで、フンを丸めたフン玉に卵を産む。卵や幼虫が入ったフン玉を見つけられても、今度は飼育が上手くいかない…。幼虫が育つ土の状態は？餌であるフンを変えたらどうなる？筆者のフン“オレフン”でも育つのか？など、何度も何度も試行錯誤を繰り返しながら、羽化を目指す研究がとても興味深い。
【小学校高学年から】(上村)

知識



『ビジュアルでつかむ！
俳句の達人たち 小林一茶』
藤田真一／監修
マキゾウ／イラスト
ほるぷ出版
2024年4月

小林一茶の人生と一茶が詠んだ代表的な俳句が絵や写真と共に紹介されている。俳句の意味や季語、俳句の中に詠まれている言葉や情景なども分かりやすく紹介され、俳句を知り、親しむ1冊となっている。一茶らしいユーモアあふれる俳句が紹介され自分でも俳句を詠んでみようと思わせる。一茶について詳しく知るための1冊や記念館なども紹介されている。『ビジュアルでつかむ! 俳句の達人たち』シリーズ全4巻のうちの1冊。
【小学校高学年から】(三枝)

読物



『アドニスの声が聞こえる』
フィル・アール／作
杉田七重／訳
小学館
2024年4月

第二次世界大戦下のロンドン。動物園を営むミセスFに預けられたジョーゼフは何もかもに怒っていた。父親は出征し、「文字がダンス」するから学校も苦痛、動物園の仕事を命じられ、空襲警報は毎晩のように鳴り響く。そんな中ゴリラのアドニスには徐々に心をひらき友となるが、動物園に空襲があれば「猛獣」は射殺しなければならないと知る。人間の勝手に動物の命が左右される理不尽さ、戦時下の閉塞感の中にある人のあたたかさが丁寧に書かれる。英作家のデビュー作。
【中学生から】(眞子)

絵本



『ママたちが言った』
アリシア・D・ウィリアムズ／文
ブリアナ・ムコディリ・ウチェ
ンドウ／絵 落合恵子／訳
クレヨンハウス
2023年12月

ジェイは友達と遊ぶことが好きな男の子。大きくなるにつれて親たちから「してはいけない」と言われることが増えてくる。悪いことではないのに、なぜ「してはいけない」んだろう。アフリカ系アメリカ人の子どもたちが、差別や偏見から生まれる暴力から身を守る術を教わる話だが、海外のことと切り離さずに自分の身近な差別にも敏感でありたいと考えさせられる。本作を読んで生まれる疑問を投げかけられる大人がいる環境で手渡したい。
【小学校高学年から】(前林)